

A photograph of a family in a kitchen. A man in a striped shirt and a woman in a black shirt are standing behind a wooden kitchen island. The woman is cutting vegetables. A child with blonde hair and a yellow headband is in the foreground, looking towards the camera. The kitchen has white cabinets and a wooden island. A rainbow flag is visible on the left.

フィンランドの 男女平等

選択の自由による生活の質向上



平等は繁栄の源

フィンランドは数十年にわたり、他の北欧諸国とともに男女平等を率先し、今日では世界で最も平等な国のひとつです。フィンランドが様々な男女平等のランキングで高い評価を受けているのは偶然ではありません。多くの勇敢な男女が教育、政治、就労の平等の改善に努力してきました。

男女平等はフィンランド社会の基本的な価値観のひとつです。フィンランドが積極的に平等に関与していなければ、今のように世界で最も先進的な国のひとつになりえなかったかもしれません。

女性は男性と対等な立場で働いています。保育園のシステムが整っているため、両親は容易に仕事とプライベートのバランスを取ることができます。現在では大学生の過半数が女性ですし、上場企業の女性CEOや役員は長年にわたり、着実に増加しています。

フィンランドでは差別と闘うための確固たる法律が整備されており、学校や職場では平等を促進する義務があります。多くのガラスの天井が打ち破られています。まだ平等の分野でやるべきこと、達成すべきことは

多々あります。性別による賃金格差は依然として存在し、両親ともに権利のある育児休暇も、男性はほんの一部しか取得していません。フィンランドの労働市場はまだまだ女性と男性の職業に分かれています。

平等は当たり前を実現できるものではなく、努力を要します。誰もが潜在能力を發揮できるようになるまでには、まだ改善の余地があります。フィンランドは、信頼と決意あるパートナーとして、こうした課題の解決策を見つけるべく努力します。

ユッカ・マーリアンヴァーラ
平等のためのオンプズマン



目次

- 04 先駆者たち
- 08 ファミリーストーリー
- 16 数値で見る平等
- 18 インスピレーションあふれる女性たち
- 26 平等な教育
- 28 エデュテックのパイオニア
- 30 平等の課題
- 32 開発協力
- 34 現在の平等

フィンランド外務省、2018年
テキスト: Otavamedia OMA, Päivi Brink, Päivi Leinonen, Marina Ahlberg, Aino Krohn
製作: Otavamedia OMA
レイアウトデザイン: Otavamedia OMA, Linda Macken
表紙: Vesa Tyni
写真: Finland Image Bank, Business Finland, Otavamedia, The Picture Collections of the Finnish Heritage Agency



願望や夢を追求する自由

先駆者たち

フィンランド文学の偉大な母:

ミンナ・カント

最初にフィンランド語で書いた著者の一人、ミンナ・カント(1844~97年)は、フィンランドにおける女性の権利の先駆者として高い評価を受けています。カントは演劇、中編小説、短編小説で多彩な背景の女性を描きました。

作品を通して労働者階級の女性の声を取り上げ、貧しい人々を理想主義的に描写することを拒みました。カントは当時の写実主義と自然主義の文学運動から文体のインスピレーションを得ました。戯曲『労働者の妻』(1885年)では、アルコール中毒の夫が妻と妻の収入に対してふるう権利が家族全体を破滅させていく様子を描きました。カントは不貞などに

ついても書き、保守派から強く批判されました。しかし、彼女の作品は何十年にもわたり、多くの読者にとって開眼的な存在となりました。

カントは作家であり、ビジネスウーマン、ジャーナリスト、7人の子供の母親でもありました。家族とともに住んでいたクオピオでは服地屋を経営していました。また、積極的に女性の権利とフィンランド語の役割を支援する団体に参加しました。

ミンナ・カントは記念日で称えられるフィンランド初の女性となりました。フィンランドでは3月19日にフィンランド国旗を掲げ、カントの誕生日と男女平等を祝います。



© The Finnish Heritage Agency

1907年最初の女性国会議員

1906年にフィンランド国会は世界で初めて、あらゆる女性が選挙に立候補することを認めました。すべての成人女性は国政選挙で候補者になる資格を得ました。フィンランドでは1906年に平等な普通選挙権が制定され、新しい一院制国会の最初の選挙は1907年に施行されました。国会の女性議員の割合は2011~2015年が最も高く、85人の女性(42.5%)が選出されました。



この写真には1907年に選出された19人の女性のうち13人が写っています。写真: Photographic Studio J. Indurski / Feminist Association Unioni

勇敢な先駆者たち



1870年

マリエ・チェチュリン
大学入学資格試験



1878年

ロシナ・ヘイケル
医師免許



1882年

エンマ=イレーネ・アストロム
学芸修士号



1895年

カロリナ・エスケリン
医学博士



1905年

イェンニ・マルケリン
道路・橋梁建設技師



1918年

アグネス・ショーベリ
獣医学博士 — ヨーロッパで最初の女性獣医



1926年

ミーナ・シッランパー
政府閣僚、影響力のある先駆者



1927年

アルマ・ソーデルイェルム
教授



1938年

エウジニー・リシツィン
物理学博士



1942年

エーヴァ・リンデン
フィンランド言語学博士



© The Finnish Heritage Agency

最初の女性大臣:

ミーナ・シツランパー

シツランパー(1866~1952年)は1907年に当選した最初の女性国会議員19名のひとりでした。国会議員を務めた38年の間に、シツランパーは精力的に活動し、自らが信じた社会問題の解決方法を推し進めました。また、女性の社会的地位を向上するための施策を継続的に支援しました。1926年から1927年には社会保健大臣を務め、フィンランド初の女性大臣となりました。

シツランパーの両親は貧しく、彼女には8人の兄弟姉妹がいました。12歳で紡績工場で働きはじめた後、家政婦として働くため、ヘルシンキに引っ越し

ました。1898年には使用人組合の設立を支援しました。1901年に組合の理事長に就任し、その後、半世紀にわたってこの職を務めました。

1930年代には長年にわたる社会的な抵抗を克服し、独身女性とその子どもたちのためにシェルターを提供する組織の開設に貢献しました。シツランパーは不利な立場にある人々や高齢者の生活向上を主張する、意思が固く影響力の強い、闘志あふれる女性でした。

10月1日には彼女の業績を記念し、フィンランド国旗が掲揚されます。



フィンランドのサーミ議会初の女性大統領:

ティーナ・サニラ=アイキオ

「サーミ文化では女性と男性は平等です。伝統的に女性と男性は異なる作業に従事していましたが、現在では誰でも希望する仕事を選べます。世代間の知識の継承など、多くの場面で女性は重要な役割を担っています。最近では、女性は教育を受けて就職し、釣りやトナカイの牧畜といった伝統的な収入源に加え、家族のためにさらなる収入を得ています」と、サニラ=アイキオは語ります。

サニラ=アイキオは2015年、フィンランドの先住民サーミ人の最高政治機関であるサーミ議会の議長に女性として初めて 選出されました。議会の21人の議

員のうち10人は女性です。

「15歳のころからサーミの政治に積極的に関わってきました。ロックミュージシャンとしてティーナ・サニラ・バンドで演奏し、スコルト・サーミで教師を務める一方、サーミのコミュニティのために尽力しました。それでも、私が30代でサーミ議会の議長になるのは若すぎると考える人もいました。若い女性だということが議論の的になったのです。このような疑念にも関わらず選出されたのは、私の政治活動、語学力、文化的な仕事、広い人脈のおかげだと思います」と、サニラ=アイキオは言います。



1955年

リーシ・オテルマ
天文学博士



1958年

ヴィエノ・ラヤオヤ
経済学博士



1961年

インケリ・アンティラ
法学教授



1976年

シルパ・ラウティオ
地方自治体長



1988年

女性94名が初めて聖職者に任命



1990年

エリザベス・レーン
防衛大臣



1992年

シルッカ・ハマライネン
フィンランド銀行頭取



1994年

リーッタ・ウオスカイネン
フィンランド国会議長



2000年

タルヤ・ハロネン
フィンランド共和国大統領



2000年

ティッタ・リンドクヴィスト
士官、上級中尉



2003年

アンネリ・ヤーッテー
ンマキ
フィンランド国首相



2010年

イルヤ・アスコラ
福音ルー派教会司教



平等という幸せ:

27年間一緒に生きて

ティーナ・ペルコネン(62歳)とユッシ・ペッテリ(ペテ)・ヌルミ(64歳)は1991年からともに人生を過ごしています。2人とも以前、2度結婚していたため、結婚という形は選びませんでした。2人の間には成人の娘がひとりいるほか、ティーナには前の結婚で授かった息子が2人います。

「私が育った頃、両親は共働きでした。母はコピーライターで、父はジャーナリストでした。二人とも政治に積極的で、家ではいつも活発な議論が交わされていました。子供の頃、平等は当たり前だと思っていました」と、ペテは言います。

ティーナの父親もジャーナリストでしたが、ティーナが若い頃に亡くなりました。

「母は裁縫師でした。とてもはっきりとした性格で、何かを決めるとき、両親と一緒に決断していました。幸せな子供時代でした」と、ティーナは回想します。

ペテは1979～1983年と1987～1989年、ティーナは1976～1982年と1983～1991年にそれぞれ結婚していました。彼女の2人の息子は、2番目の結婚の時に生まれました。

「最初に結婚した時はまだ21歳で、離婚は友好的なものでした。2番目の夫とも良好な関係を保っています。彼は息子たちの良い父親です。息子たちが幼い頃は平等に育児を分担していました。離婚した理由のひとつは、私が仕事をやめて再び勉強するという考えに彼が同意してくれなかったことです」と、ティーナは言います。

ティーナは息子が生まれるまで劇場で秘書として働いていましたが、産休後はメディアについて勉強することにしました。

「最初は地元のフリーペーパーで働きました。1999年には、今の勤務先のコミュニケーションエージェンシーで、ジャーナリスト兼編集次長として働きはじめました。息子たちの保育園はきちんと組織化され、うまく機能していました」と、ティーナは振り返ります。

ペテはミュージシャンで、様々な仕事をこなしてきました。

「ヘルシンキのオウルンキュラ音楽学校で音楽を勉強しました。私はギタリストで、音声技術者でもあります。ミュージシャンとして働き、ギターを作り、多



くの学校で音楽やサウンドシステムについて教え、多くのレコードを録音しました。私の勤務時間は通常とは異なり、夕方や夜の場合がほとんどです」と、ペテは言います。

2人は睡眠リズムが異なるため、娘が生まれた時は容易に家庭生活を送ることができました。

「娘が赤ちゃんの頃、夜間は私が哺乳瓶で授乳したので、ティーナは眠ることができました。娘が学校に上がった後も私は午後には在宅していたので、娘とは今でもよい関係を保っています。また、ティーナが働いている間は家事をして、料理もしました」と、ペテは言います。

ティーナとペテは、共通の趣味を通して知り合いました。音楽です。彼らはメンバー10名のバンド仲間です。今でも一緒にライブをします。現在、この趣味が2人を結び付けています。

「音楽では皆が対等です。男も女も関係なく、ミュージシャンなのです」と、ペテは言います。

「私たちが若い頃は違いました。女性のミュージシャンは、男性ほど高く評価されていませんでした。でも、今は改善されました」と、ティーナは語ります。

平等な社会は男性と女性の両方に恩恵をもたらすと、2人は考えています。

「私はいつもフェミニストでした。平等とは、誰もが個人として、また職業上の夢を達成し、仕事や家庭生活、趣味を楽しめることです」と、ティーナは言います。

「平等は誰の人生をも容易にします。性別は2つだけではありませんし、誰もが同じように扱われるべきです」と、ペテは結論づけています。

フィンランドで赤ちゃんを育てるということは...



> **出産助成金:** 育児パッケージ*、または170ユーロの現金給付

> **出産手当**** は、赤ちゃんの出産後も継続的に支払われます

> **育児給付金***** は、赤ちゃんの出産後、次の月から支給されます。

> **産休**は 105勤務日です。

> 母親または父親が産休後に158日勤務日から親休業を取得できます。

> 父親は父親休業の間に54日間、父親手当を受ける資格があります。

> 母親がまだ出産手当を受け取っている間でも、父親は1~18勤務日の父親休業を取得できます。

> 残りの父親手当は出産手当と育児手当期間後に支払われます。

> 母親と父親は交代で12日以上親休業を2回まで取得できます。

> 親は、子どもが3歳になるまで無給休業を取得し、自宅で子どもと過ごすことができます。仕事を失うことはありません。



フィンランドの絵文字 #箱の中の赤ちゃん。
フィンランドは、政府機関として世界で初めて絵文字を発表した国です。
toolbox.finland.fi

* 育児パッケージには衣類や育児用品が含まれています。 ** 出産手当または育児手当の金額は課税所得に基づいています。*** 育児給付金は子供の人数に基づいて決まります。子どもひとり当たりの最低額は毎月94ユーロです。詳細については、www.kela.fiをご覧ください。



トンミ・コイヴィストはフィンランドの父親たちに親休業を取るよう勧めます



トンミとサトゥ・コイヴィストは子どもたちが幼い頃、有給の親休業を利用しました。このため、サトゥが復職した際、トンミは子どもたちと自宅で過ごすことができました。

トンミとサトゥ・コイヴィストには6歳の娘と2歳の息子がいます。コイヴィスト夫妻は子どもが生まれる前から、なるべく平等に親休業を取ろうと話合っていました。フィンランドでは赤ちゃんや小さな子どもの世話をするために仕事を離れるよう、母親手当、父親手当、両親手当を国が支払います。

「娘が生まれた時、最初の3週間は私が家にいました。妻が復職する前に父親休業の最後の数週間を利用し、妻が仕事を始めた後は私が6カ月間、育休を取って家にいたので、合計7カ月以上、仕事から遠ざかりました。息子が生まれた時は9週間の父親休業を4回に分けて取り、息子が16カ月になった時に6カ月の親休業を始めました」と、トンミは言います。

子どもたちと一緒に家にいることが良い考えのように思えた理由は数多くありました。

「妻にはキャリアがあり復職を望んでいたため、親休業の分担を希望していました。私はすでに10年間働いていたし、私にとっても家族と過ごす時間を増やすにはいいタイミングでした。私が親休業を取った最も重要な理由は、子どもたちと親密な関係を築くことでした」と、トンミは語ります。

フィンランドのほとんどの男性は何らかの父親休業を取っていますが、両親ともに取得権利のある親休業を取る人は少ないのが現状です。

「私の家族、友人、同僚、雇用者は皆、私と子どもたちと一緒に家で過ごすことについて非常に協力的でした。私はゲームプロデューサーなので、同僚に私の職務を任せるのは結構簡単でした。これは、私と同僚にとって新しいことを試す機会にもなりました。長期間の親休業を取る最初の男性になるのは難しいとは思いますが、他の父親にもそうするよう勧め

めします」と、トンミは言います。トンミは家庭生活や育児についてブログを書いています。

「親であることと家庭生活のポジティブな面を見せたいのです。両親がともに責任をもって育児と向き合えば、キャリアを構築し、趣味や育児を楽しむ平等なチャンスを得られます」

子どもたちが成長した今、トンミは保育園や学校と連絡を取り、子どもの健康に気をつける上で妻と同程度の責任を負っています。「保育園のお迎えや、病気の子どもの在宅で世話をする時など交替で行っています。子どもたちは夜中に目を覚ますと私を呼びます。私たちは親として対等で、私も妻も子どもたちと親密です」と、トンミは語っています。

大人4人と子ども2人の家庭

アンナ・エドグレンは、パートナーのミア・ベックと二世帯住宅の片側に住んでいます。もう片側にはアンナの友人、ヨハン・ウェルケリンとパートナーのペーター・ビョークフォルスが住んでいます。彼らは普通の隣人よりも親しい関係にあります。この4人の大人と2人の子どもで家族を作っているからです。子どもたちの生物学的な親はアンナとヨハンです。

「子どもたちの部屋は家の真ん中にあります。今はもう小学生なので自分たちで自由にそれぞれの家を行き来していますが、親として子どもたちの世話を交替で行うことにしています」と、アンナは言います。

変わっているかもしれませんが、周りの反応はたいてい肯定的です。それでも時々、異性愛だけを前提とした見方にぶつかることがあります。ペーターは初めて学校の保護者会に出席し、「実際には誰の父親でもありません」と自己紹介した時、妙な雰囲気になりました。最初は驚かれたものの、説明すると、今度はまわりに称賛されました。

「子どもたちに多くの親がいると、責任を共有したり、必ず誰かが子どもたちと過ごすことができます」と、アンナは言います。

性別が、家庭内での役割や何をするのかを決めるわけではありません。たとえば、車のタイヤ交換は、男性と同じくらい女性の務めでもあります。子どもたちも性別に関係なく、様々な家事を手伝うよう期待されています。しかしアンナは時々、家庭内では男性より女性のほうが料理や洗濯をしているのではないかと話す人に出会うこともあります。

「なぜ私が隣人の家事をしなければならないのでしょうか?」

子どもたちは不妊治療クリニックの支援を得て生まれました。アンナは、クリニックのスタッフが非常にプロフェッショナルで協力的だと感じました。友人や親しい人々もこの選択を喜んでくれました。

同性パートナーとの家庭で育つ子どもには、生物学的な親の一方が一緒にいないことが多いですが、アンナの家族は特別です。それぞれのパートナーがい

なければ、普通の両親のように見えるでしょう。子どもの健診時は、いつも父親と母親が同居していないことを看護師に説明しなくてはなりませんでした。

日常生活はうまくいっていても、社会にはまだ一般的でない家族のかたちを受け入れる準備が足りません。最も残念だったのは、第1子が生まれた時にヨハンが父親手当を得られなかったことです。同じ家に住んでいないという理由でした。

「幸運にも雇用主が理解のある人で、育児休暇を取ることができました。しかし、私はその期間中、無給でした」と、ヨハンは言います。

2017年には法律が改正され、現在は母親と住所が同じでなくても生物学的な父親は父親手当を得ることができます。

同性パートナーの両親を含むレインボーファミリーは2017年に発効した法令で、以前よりも多くの権利が認められるようになりました。

- 子どもの生物学的な父親は育児の責任がある場合、父親手当と両親手当を得る権利があります
- 法律は、母親の女性のパートナーが親休業を取ることも許可しています。
- 母親のパートナーには、父親手当を取得する権利があります。

www.kela.fi/web/en/rainbow-families



数値で見る平等

フィンランドの基本情報

フィンランドは、平等の推進という点で世界トップクラスの国です。男女平等への第一歩は、すでに国の独立前から始まりました。

男女平等の目標は、男性と女性の両方が仕事をしつつ、家庭生活も営めるようにするという考えに基づいています。男女共に、子育てと仕事を楽しく、責任を負う権利があります。2017年の統計によると、

フィンランドの子どもがいる家庭の数は56万9700世帯。合計213万9700人が子どもがいる家庭に住み、人口の39%を占めます。

子どもがいる家庭で最も一般的な家族のかたちは、婚姻関係のある夫婦と子どもで、59%を占めます。未婚カップルは20%で、子どものいる家庭の約9%は混合家族(どちらか一方、もしくは双方に連れ子がいる再婚家族)です。

人口
2018年の暫定値
女性 279万5808人
男性 272万3655人

平均寿命
2017年
女性 84.2歳
男性 78.7歳



結婚
2017
2万6542件

同性カップル 2.1%
異性カップル 97.9%



日常の家事に費やされる1日あたりの平均時間
女性 3時間41分
男性 2時間33分

29.1歳 31.2歳

第1子出生時の女性の平均年齢(2016年)

第1子出生時の男性の平均年齢(2016年)

人口情報、出典：フィンランド統計局

15~64歳の就業率(2018年8月)

70.8% 74.4%

女性 男性

男女間の賃金格差
2016年
(男性と女性の平均時給の差、男性の総収入に対する割合)

女性:
84
セント

男性: 1ユーロ

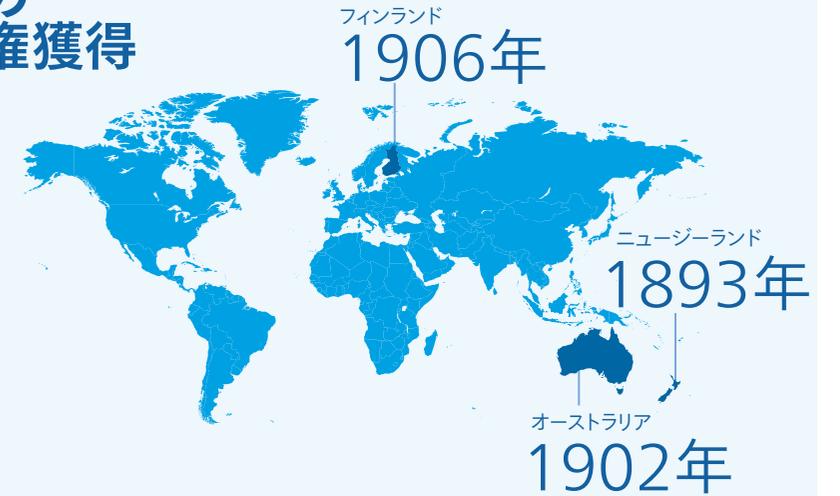
1907年 初の国政選挙



2015年 国政選挙



女性の選挙権獲得



21世紀のフィンランド政府の閣僚



出典：フィンランド政府

男女平等トップ10

- | | |
|----------|------------|
| 1 アイスランド | 6 ニカラグア |
| 2 ノルウェー | 7 スロベニア |
| 3 フィンランド | 8 アイルランド |
| 4 ルワンダ | 9 ニュージーランド |
| 5 スウェーデン | 10 フィリピン |

出典：グローバル・ジェンダー・ギャップ・レポート 2017、世界経済フォーラム(144カ国のランキング)

インスピレーションあふれる女性たち

フィンランドでは、女性も男性もキャリアを築くことができます。以下のページでは、自分のニーズや才能に合った職業を発見した女性たちを紹介します。

白バイ警察官

ミンナ・カストレン

フィンランドでは1907年にすでに女性が警察官として採用されていました。今日、警察官になるには警察大学で3年半の教育を受けますが、学生の約30%が女性です。

1978年に生まれたミンナ・カストレンは、フィンランドの白バイ警察官試験に合格した2人の女性警察官の一人です。フィンランドの西海岸にあるコッコラに住み、勤務しています。白バイ警察官課程の入学試験と訓練は非常に厳しく、体力もかなり必要です。

「女だから私には無理だと思ったことはありません。2002年に警察官として働きはじめ、2016年には白バイ警察官になる試験を受けるという貴重なチ

ャンスを得ました。私が男であろうと女であろうと関係ありませんでした。必要なのは試験とコースに合格することだけでした。すべて私自身の肩にかかっており、多大な努力を要しました。私は試験に通らないだろうと疑っていた人もいましたが、多くの人たちは協力的でした」と、カストレンは言います。

4人の子どもの母親でもある彼女は、子どもたちが幼い頃は一緒に家で過ごすのが当然と感じていました。

「今は子どもが大きくなったので、私のシフト中は子どものニーズに合わせて夫が仕事を調整しています」



写真: Ulla Nikula

平等のマイルストーン

フィンランドの福祉は当初から男女平等に基づいており、生産年齢のほとんどの女性が有給労働に従事しています。

出典: 国立健康福祉研究所男女共同参画情報センター



1901年

女性の大学入学への特別許可が不要に



1906年

女性に選挙権と被選挙権が与えられ、国会議員が誕生



1910年代

出産後4週間の出産休業を認める初の法令



1917年

地方自治体選挙に普通選挙権を導入



1921年

男子・女子児童への義務教育法



1926年

女性公職適任法



1937年

貧困女性を対象とした母親助成法



1940年代

児童手当の導入

1948年

学校給食の無償提供

ヘルシンキ副市長

ナシマ・ラズマイアー

ナシマ・ラズマイアーは1984年にカプルーで生まれました。彼女の家族は1992年に難民としてアフガニスタンからフィンランドにやって来ました。彼女は大いなる決意をもって夢を追求してきました。

「私は若い移民、とくに女の子の模範になることを願っています。フィンランドでは、性別や生まれ育った環境に関わりなく何かを達成することが可能です。残念ながら、白人以外の女の子にとってはまだ難しいのですが、私は状況が変化していると信じています」と、ラズマイアーは言います。

ラズマイアーは様々な組織を通じて移民を支援してきました。政治学を学び、地域支援教育者として卒業しました。2010年には、平等と多様性を推進する

活動が認められ、年間最優秀難民女性に選ばれました。同年、ヘルシンキの市議に選出されました。2011年にはフィンランドの国会の代理議員、2015年には議員に選出されました。2017年にはヘルシンキの文化レジャー担当副市長に選出されています。

ラズマイアーは副市長として、様々な方法で平等を推し進めています。

「たとえば、ヘルシンキ市の青少年サービスはジェンダーの多様性と男女平等に注意を払うべく多大な努力をしてきました。女子と男子は趣味にこそしむ機会が平等にあるはずですが、ヘルシンキは、公共サービスを通してジェンダーの規範を強調するのではなく、型を崩す大きな責任を負っています」と、ラズマイアーは結論づけています。



食料品店オーナー兼起業家

パイヴィ・ハルトウネン

フィンランドには28万以上の企業があり、そのうち約93%が従業員10人未満です。企業の約3分の1は、女性がオーナーです。そのひとつがトゥルクの中心地にあるパイヴィ・ハルトウネンのマンドラゴラです。

ハルトウネンは、夫とともにマンドラゴラという名のコーヒー、紅茶、チョコレートを扱う食料品店を営んでいます。彼女の担当は主にマーケティングと経営です。ハルトウネンにとって食料品店の経営は新しいビジネスですが、起業家としては長い経験があります。

「1980年代に美容師として卒業すると、すぐに自分の事業を始めました。今はマンドラゴラの経営が主な仕事ですが、まだパートタイムで美容にも関わっています」

自分の会社の経営に加えて、ハルトウネンは美容学校で教えているほか、劇場やファッションショーでメイクを担当しています。最初の会社を始めた時、彼女の子どもたちはまだ幼なかつたのですが、

「自宅と美容室が同じ建物内にあつたので、ある意味、私は常に家にいました。子どもは3人いますが、何もかも非常にスムーズに行きました。子どもたちは保育園に通い、時には祖父母が手伝いに来てくれました」

ハルトウネンは起業家ネットワークでも積極的に活動しており、人脈づくりを勧めています。

「よくお互いの会社を訪問して、経験談を語り合ったりしています。新しいことを学ぶには素晴らしい方法です」



1949年

経済状況に関わらず、すべての女性に母親助成を拡大



1963年

公職の男女同一賃金



1964年

母親手当(54勤務日)



1970年

職場での性別を理由とした差別の禁止



1972年

義務教育法:すべての子どもに公的資金による基礎教育を受ける権利が認められる



1972年

男女平等委員会の設置



1973年

保育法



1974年

母親手当(6カ月間)



1975年

国民年金法で基礎国民年金の男女平等な権利を規定



1975年

ほぼすべての官職に女性の任命が可能に



1976年

配偶者の分離課税(個人単位、控除なし)

1978年

両親が親休業を分けて取得する権利を付与

ノキアンタイヤCEO

ヒッレ・コルホネン

「母は強い女性でした。女性は自分で自分のことができなくてはならないと言っていました。いつも私を応援してくれ、私の子どもたちが幼い頃は子どもの世話を手伝ってくれました」と、ヒッレ・コルホネンは言います。

ノキアンタイヤは、約4600人の従業員を抱えるタイヤメーカーです。上場しており、2017年の売上高は約16億ユーロでした。1961年生まれのコルホネンは、2017年から同社のCEOを務めています。その前は10年にわたり、同社の役員でした。また、これまでも多くの取締役会で役員を務めてきました。ノキアンタイヤに入社する前は、フィンランドの酒類専売会社アルコでCEOを務めていました。コルホネンは工学系の

上級修士号を保有しています。2018年には、タンペレ大学から名誉博士号を授与されました。

「私が大学で工学を専攻していた頃、同学年の学生は男子が105人、女子が5人でした。私は男性ばかりの分野で働き、キャリアを築いてきました。女性だからと軽視されたことはないように思います。いつも目の前の仕事に集中し、最善を尽くしてきました」と、コルホネンは言います。

コルホネンの生活にとってスポーツは非常に重要です、なんと重量挙げのフィンランドチャンピオンでもあります(2015~2018年のマスターズ63kg級)。運動も、精力的に仕事をする上で役立っています。



© Lehtikuva



法医学教授

ヘレナ・ランタ

1946年生まれのヘレナ・ランタは国際的に有名な法医学教授で、犠牲者の特定に従事してきました。また、世界中の戦地と災害地域でも法医学的な調査を行ってきました。ボスニアヘルツェゴビナ、コソボ、カメルーン、ペルー、イラク、2004年の津波後の東南アジアなどです。

「圧倒的に男性が多い環境で働いてきました。現場で唯一の女性ということもよくあります。私が女性ということで、訪れた国で驚かれることもあります。とりわけ、法医学チームのリーダーを務めていることが多いですから。それでも、私がタフな専門家だということはすぐに認識してもらえます。驚いたことに、高齢なフィンランドの専門家が、私が外国での任務をきちんと遂行できるのか疑ったこともあります。しか

し、私は女性であることが本当に不利な要素だとは思っていません。私がこれまで生きてきたなかで、多くのガラスの天井が打ち破られてきました」と、ランタは言います。

定年退職する前、ランタはヘルシンキ大学の法医学部で教授を務めていました。彼女は人権擁護者としての活動で知られています。「UN Women フィンランド」の元会長で、現在は1325ネットワーク・フィンランドの会長を務めています。このネットワークは、フィンランドで国連安保理決議1325号「女性、平和と安全保障」の実施を強化することを目指しています。2017年、ランタは平和調停に関する初の国際的な賞であるリュウシストラテ賞を受賞しました。



1980年代

病気の子どもを看病する際の所得損失を補う在宅子ども看護手当と特別看護手当を導入



1986年

女性聖職者の任命制限を撤廃



1987年

男女平等法を導入

1990年代

就学前のすべての子どもに保育を受ける権利を認める



1991年

母親への振り替えや共有が認められない父親休業と父親手当の導入

1994年

夫婦間のレイプの犯罪認定



1995年

家庭内暴力が公訴の対象に



1995年

女性の軍事職の任命規制を撤廃



2011年

疾患の分類からトランスベスチズム(異性装指向)を排除

2015年

平等法で性別、性自認、性表現に基づく差別を禁止



2017年

平等婚姻法で同性カップルの婚姻と養子をとることが可能に

2018年

母親法(2019年に発効)は同性婚の女性が2人も法的に母親として認められることを保証



© Elina Manninen



© OKM/Liisa Takala



© Unto Rautio Aalto university

教育を重視するフィンランド

OECD（経済協力開発機構）のPISA*（生徒の学習到達度調査）によると、フィンランドはとくに読解力と科学の分野で世界のトップクラスにいます。これには複数の要因があります：

全国・全学齢に行き渡る質の高い基礎教育、高度な教育を受けたスキルの高い教師、子どもが通う学校を居住地に基づいて決める近隣学校制、機能的で質の高い図書館システムなど。

今日では、労働市場に入った後も教育は続きます。フィンランドでは大半の雇用者が、従業員に知識更

新のためのコースを提供しています。仕事内容を変え、再教育を受ける人も大勢います。外国語やICT、手工芸といった新しいスキルを学ぶことは、生涯続く趣味になる可能性もあります。フィンランドには様々な分野で、低コストな教育と訓練を受けられる機関や学校の包括的なネットワークがあります。これらは、必ずしも学位取得にはつながりません。生涯学習は、個人と地域社会の両方に恩恵をもたらします。

*PISAとはOECD加盟国による学習到達度調査のことで、教育の現状と成果を国際比較した情報を提供しています。3年ごとに、15歳児の数学、科学および読解力を評価します。

- フィンランドの子どもには全員、（就学前の）プレスクールと基礎教育を無償で受ける権利があります。男女別の学校はありません。
- 6歳児向けのプレスクールは、保育園か学校内にあります。
- 子どもは7歳から小学校に通いはじめます。教育、教材、給食は無料です。子どもが学校から5キロ以上離れた場所に住んでいる場合、交通費は無料です。
- 9年間の基礎教育を受けた後は、普通高校か職業高校に進みます。
- 普通高校では、さらなる勉学に備えるための一般的な教育を提供します。普通高校は2～4年で修了します。普通高校の最後に、大学入学資格試験を受けます。2017年に試験を受けた生徒の約58%が女子でした。

153,262

大学生
2017

女子 53% | 男子 47%

31,014

大学の卒業生
2017

女子 58% | 男子 42%

リンダ・リウカス： テクノロジーを楽しく創造的に

リンダ・リウカスは、子ども向けにプログラミングの絵本を出版してきました。今までコンピューター、コーディング、インターネット、AIを扱った『ルビィのぼうけん』シリーズを4冊執筆しています。また、世界中の女性にコーディングの基礎を教える無料ワークショップの輪「レイルズガールズ」の設立者でもあります。リウカスの学歴は哲学、ビジネス、フランス語、ビジュアルジャーナリズムなど多岐にわたります。「数学とクリエイティビティが分けて考えられることが多すぎます。10歳の女の子でさえ、自分たちは創造的だけれど算数は苦手だと考え、コンピューターではなく人と接する仕事がしたいと話します。私は講師、絵本作家、そしてイラストレーターとしての仕事を通して、テクノロジーに関わる仕事は創造的であり、上手にこなすには社会的スキルが必要だということを女の子たちに見せたいのです」と、リウカスは言います。

米カリフォルニア州にあるスタンフォード大学でコーディングを勉強していた時、リウカスは自分を表現するツールとしてコーディングを使う方法を学びました。「フィンランドに帰国した後、友人のカリ・サーリネンと週末にイベントを開きはじめました。遊び心あふれる楽しい方法で、女性がコーディングやプログラミングのスキルなどを学べるイベントです」と、リウカスは説明します。「このイベントにレイルズガールズという名前を付けました。オープンソースのWebアプリケーションフレームワークのRuby on Railsにちなんでいます。すぐに口コミで広まり、シンガポールでも同様のイベントを開催したいといわれました」レイルズガールズは今、世界的な非営利のボランティア集団です。すでにほぼすべての大陸の約500都市でイベントを開催しています。

プログラミングの絵本『ルビィのぼうけん』

リウカスの最初の本『ルビィのぼうけん〜こんにちは!プログラミング』は25カ国語に翻訳されています(邦訳は2016年発売)。2作目と3作目はコンピューターとインターネットについて子どもに説明するものでした。シリーズの最新作は、AIと機械学習に関する本です。

リウカスは子どもたちに、創造的な思考ツールを与えることを目指しています。シリーズ本には、イラストつきの物語と楽しい練習問題がついています。

「ルビィは本として始まりました。足がかりとしては素晴らしい手段です。そこから何にでもなることができます。『ルビィのぼうけん』の学校なんてどうでしょう? 同じ価値観と目標をもちながら、まったく違うものにもなれるんです」と、リウカスは微笑みます。

親は世界どこでも同じ

リウカスは現在、インスピレーションあふれる講演者として、1年の半分は世界中飛び回って過ごします。教師や経営者、オピニオンリーダー、保護者などが講演を聴きに來ます。

“どこに行っても、親は常に自分の子どものために最善を望んでいます。私たちは一緒に、子どもたちが将来成功するにはどんなスキルが必要なのか考えます。私はテクノロジーをソフトな価値観と組み合わせることに成功しました”

リウカスは日本や韓国、中国などでも非常に人気があります。『ルビィのぼうけん』は2017年5月、中国のトップデザイン賞である13万ユーロ・デザイン・インテリジェンス・ゴールド賞を受賞しました。

lindaliukas.com
railsgirls.com
helloruby.com



フィンランドにおける平等への挑戦

フィンランドの男女平等は世界トップクラスですが、まだ解決できていない問題もあります。

「大きな問題のひとつは経済格差です。平均的に、男性は女性よりも高い収入を得ています。フィンランド人女性の大半はフルタイムで働いています。労働力が大きく分離されているため、男性と女性は異なる分野で働いています。一般的に、女性優位の分野は男性優位の分野よりも給与が低くなっています。母親と父親の間で、育児の分担が不平等な点も問題の一部です」と、マルキュット・ユルキネンは言います。

ユルキネンはヘルシンキ大学で就業平等ジェンダー研究の准教授を務めています。WeAllという平等な就業に関する研究プロジェクトの責任者でもあります。

フィンランドの女性は教育レベルが非常に高く、たいてい中間管理職まで昇進します。

「奇異なことに、最高位の役職や企業の取締役会では女性はまだ少数派です」

平等におけるもうひとつの大きな問題は、社会のあらゆる階層の女性が遭遇する性暴力です。

「加害者はほとんどの場合、現在のパートナーか元パートナー、知人です。親密な環境での暴力は繰り返し発生し、外部の介入なしに止まることはありません。このサイクルを打ち破るには、様々な当局とNGOが多岐にわたって協力する必要があります。この活動と暴力防止のためには、より多くの資源が必要です」と、ユルキネンは強調します。

男女間の不平等に関してよく議論されるのが、男児は女児ほど学校での成績がよくない点です。

「これは男らしさという視野の狭いイメージのせいかもしれません。読書や教育は男性的とは見なされないからです。しかし、フィンランドでは男児の大半が学校でよい成績をおさめています。フィンランドの女児の成功を称賛することも忘れてはなりません。性別の役割に関するステレオタイプを打ち破ることができれば、より平等に学習できます」

フィンランドは市民社会が平等の促進に関与している先駆的な国だと、ユルキネンは考えています。

「多くのNGOが平等の促進に積極的に関わり、市民のイニシアチブが法改正上程の原動力になっています。これは政治に影響を与える非常に貴重な手段です」と、ユルキネンは語ります。



「フィンランドにはまだ改善すべきことがあります。たとえば、#MeTooキャンペーンによって、平等の表層は薄いことがわかりました。少し引っかけば、不平等にまだ寛容な態度が表面化します。とはいえ、グローバルな観点から見ればフィンランドは男女平等が進んだ国で、平等を実現することは皆の利益になると伝えられます」

タルヤ・ハロネン前フィンランド大統領
アンナ誌、2018年8月

発展途上国における女性の権利

女性と女児の権利と地位向上は、フィンランドの開発政策において優先分野です。フィンランドの開発政策の目的は、貧困と不平等を撲滅し、持続可能な開発を促進する途上国の活動を支援することです。

フィンランドは、4つの重点分野での活動に注力しています。そのひとつが、女性と女児の権利と地位向上です。男女間の不平等は、途上国における最大の問題のひとつです。女性と女児の権利および地位を向上させ、社会に参加する機会を拡大すれば、社会全体が強化されることが経験上、明らかになっています。これは、他の開発目標の達成も促進します。フィンランドは男女平等の促進という点で国際的に信頼されており、その専門知識があります。

フィンランドは、あらゆる女性と女児の権利、および男女平等の促進において先駆的な役割を果たし

てきました。この問題は現在も開発政策の重要な目標です。

フィンランドの開発政策は人権に基づいており、開発協力の手段と目標としての体系的な統合を伴います。

男女平等は、フィンランドの開発政策において分野横断的な目標です。特定のジェンダー介入のほかに、あらゆる開発政策で考慮されています。フィンランドは様々な分野に男女平等の考え方を取り入れる経験が豊富です。

UN Womenは、男女平等の推進においてフィンランドの主要な戦略的パートナーのひとつです。UN Women加盟国のなかでも、フィンランドは最も貢献度が高い国のひとつとして知られています。フィンランドは、国連人口基金(UNFPA)と国連児童基金(ユニセフ)にも中核的な資金を提供しています。

さらに、国連および国際開発金融機関内の17のジェンダー専門職のスポンサーとなり、ジェンダーを主要な問題として取り上げる国際機関を支援しています。

フィンランドは、以下の目標を促進すべく尽力しています：女性と女児のよりよい教育とスキルの取得、女性と子どもの質の高い基本サービスへのアクセス向上、女性および女児の政治的意思決定と経済活動への関与、より多くの女性と女児が自分の人生に影響を与える事柄を決定できる権利の付与、暴力や虐待の被害者低減などです。

出典：um.fi



フィンランドは数十年前から女児と女性の教育を支援してきました。これは現在でもフィンランドにおける開発協力の主要目標のひとつです
写真 © Kirsi Pere / Ministry for Foreign Affairs

女性銀行は、フィン・チャーチ・エイドが管理している基金で、発展途上国の女性のために生計を確保し、持続可能なビジネスの機会を創出することを目的としています。
写真 © Ville Asikainen / Finn Church Aid

平等を測定することは可能?

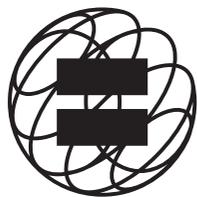
世界経済フォーラム(WEF)は2017年、年次報告書が調査した144カ国において男女格差が健康分野では平均して96%、教育分野では95%以上、狭まったと報告しています。しかしながら、経済機会と政治参加における男女間のギャップは広いまです。

WEFはこの報告書で、健康と教育、政治と経済の意思決定への女性のアクセスに基づいて各国を分類しました。2017年、フィンランドは男女平等で3位にランクされました。フィンランドよりも上位だった国はいずれも北欧諸国です。

フィンランドにおける男女平等は、長期間にわたる決然とした組織的活動の成果です。フィンランドの女

性は一世紀以上にわたって、政治的な意思決定に参加してきました。男女間の平等は偶然生じたわけではなく、女性も男性も積極的に諦めず根気強い活動を行ってきた結果です。現在、女性は政治の場で影響力を増しています。これは、創造的で勇気ある様々なイニシアチブからも明らかです。

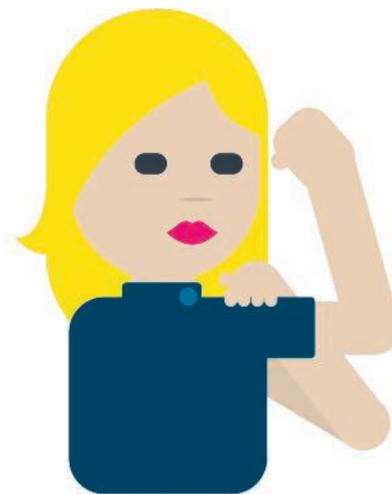
女性の割合が高ければ、性別が唯一の決め手ではない場合でも、より平等な意思決定を保證できます。コンピテンス(能力や適性)は、議会の仕事でも一般の現代情報社会でもカギとなります。フィンランドの有能な女性たちを誇りに思う正当な理由があります。彼女たちの業績は国際的にも有名です。



INTERNATIONAL
GENDER EQUALITY
PRIZE

国際男女平等賞

フィンランド政府によって設立された国際男女平等賞は、世界的に重要な方法で男女平等を促進した個人や組織に授与されます。2017年に初めて受賞したのは、ドイツのアンゲラ・メルケル首相です。メルケル首相は、女性と女兒の権利を擁護するニジェールの市民社会組織に賞金を寄付しました。



フィンランドの絵文字 #girlpower。
フィンランド外務省が発表した絵文字は
toolbox.finland.fiで、すべてご覧いただけます

国際的な指標で評価の高いフィンランド

● 世界で最も幸せな国

世界幸福度レポート2018では、独自の幸福水準に従って156カ国をランク付けしました。国連「持続可能な開発ソリューションズネットワーク」

● 世界で最も男女平等が進んでいる国 3位

2017年の世界男女格差指数は144カ国を対象としていました。世界経済フォーラム

● 世界で最も安定した国

2018年の脆弱国家指数は、紛争や崩壊への国の脆弱性に応じて178カ国をランク付けしました。
米シンクタンクFFP(平和基金会)

● 職場の男女平等度でフィンランドの女性は世界4位

2018年「ガラスの天井」指数。
英エコノミスト誌

● 「女兒にとってよい国」ランキングで2位

セーブ・ザ・チルドレン「最後のひとりまで」
2016年女兒の機会指数」

● フィンランドは世界で3番目に個人的な自由と選択肢がある国

米NPO「ソーシャル・プログレス・インベラティブ」、
2018年社会進歩指数

出典: フィンランド統計局

男女平等を監視・実施する機関

フィンランド社会保健省の平等ユニット

フィンランド政府の男女平等政策の準備と調整を担当。

平等のためのオンブズマン

男女平等法の遵守を監督することを主要な職務とする独立機関。オンブズマンは、ジェンダーとジェンダー少数派の問題に関する権限をもっています。オンブズマンの権限は、差別の排除と平等の促進の両方で構成されています。オンブズマンは、主に指導と助言を提供することによって職務を遂行します。平等のためのオンブズマンは、法務省行政部門の傘下にあります。

平等委員会

男女平等関連法の遵守を監視し、これらの法にかかわる問題を討議・解決する独立委員会。

ジェンダー平等評議会

フィンランド政府が、国会の会期中に任命する委員会。社会における男女平等を促進する。

国立健康福祉センター(THL)男女平等情報センター

男女平等に関する情報や、研究を収集、提供。利用者は多岐にわたり、当局、政治家、平等関連の団体、学生、研究者、メディアなど、ジェンダー問題に関心のあるあらゆる人にサービスを提供。

詳細については以下をご覧ください。
www.stm.fi



ご存知でしたか？

フィンランドでは、仕事と家庭を上手にバランスするためのサポートが提供されています。

子どもには、包括的な小児医療システムを含む良好な条件と、保育、学校での健康管理、学校給食が提供される権利が保障されています。

本誌記事、各執筆者の責任に基づいて書かれています。
メール(駐日フィンランド大使館): sanomat.tok@formin.fi
参考資料としてご自由にお使いください。

SUOMI
フィンランド

FINFO
Finland, Finns, Finnomena

this is FINLAND.fi
things you should and shouldn't know

